

先進医療技術「先天性難聴の遺伝子診断」の実施について

平成23年3月1日
京都府立医科大学

本学附属病院において先進医療として申請していた技術について、厚生労働省より承認され、平成23年3月より実施することとなりましたので、お知らせします。

1 今回実施する医療技術の概要

名 称	先天性難聴の遺伝子診断
実施診療科	耳鼻咽喉科 (実施責任者 坂口博史 講師)
適 応 症	先天性難聴
技術の内容	<p><意義> 先天性難聴の原因として最も多いのは遺伝子の変異による遺伝性難聴であり、その頻度は出生2000人に1人といわれ、最も頻度の高い遺伝子疾患の一つである。難聴の原因となる遺伝子変異(難聴遺伝子)は100種類以上が知られており、難聴遺伝子の種類によって、難聴の遺伝形式、発症時期、進行性、めまいなど随伴症状の有無、などが異なる。本検査により、遺伝性難聴患者のうち約60%で、難聴遺伝子の種類を特定することができる。</p> <p><対象> 先天性難聴を疑われる小児の患者が主な対象となるが、成人の難聴患者も対象となる。</p> <p><方法> 本検査の一部は外部機関(信州大学)に委託して行う。当院で被検者から採血し、外部機関に送付して難聴遺伝子をスクリーニングする。得られた結果をもとに当院耳鼻咽喉科と遺伝子診療部の担当者が合同で遺伝カウンセリングを行う。</p>
利 点	<p>従来から行われてきたABRやASSRのような他覚的聴覚検査と組み合わせることで、より早期に難聴を確定診断することができる。また、一部の症例では、難聴の進行予防に役立てることができる。</p> <p>また、当院耳鼻咽喉科の小児聴覚外来では、小児難聴に関する豊富な診療実績があり、検査後の治療と聴覚管理についても十分なサポートができる。(年間の受診総数:約500人,ABRおよびASSR検査数:約150件)</p>
実 績	信州大学医学部附属病院のほか全国19病院に次いで実施。関西で先進医療の実施医療機関として承認されているのは3病院のみであり、京都府内では2番目の実施となる。
料 金	68千円(保険外の先進医療分)

2 先進医療として実施することについて

先進医療として実施することにより、先進医療に係る費用(68千円)は患者が自己負担することになるが、それ以外の通常治療(診察、検査、投薬等)は保険外併用療養費として保険給付されることになり、患者負担の軽減を図ることができる。

(※先進医療として実施しない限り、『混合診療の禁止』により保険適用できない。)

3 問い合わせ先

602-8566 京都市上京区河原町通広小路 梶井町465

京都府立医科大学附属病院 耳鼻咽喉科(坂口講師) TEL075-251-5603

病院経営企画室 TEL075-251-5243